



Instagramで
ほぼ毎週、市の景色
を紹介中です。

6月の投稿から2
カ所をご紹介します！

右：伯太町東母里
左：安来公園



◀安来市公式
アカウントは
こちら



このマークの記事は、関連
写真を「市公式フェイス
ブック」で公開しています。



まちの話題や
出来事を
紹介します

たうんとぴっくす

TOWN
TOPICS

今月の1枚



第26回吉田ほたる祭りが吉田交流センターで開催
されました。南小学校児童の吉田川のホタルを守ろう
プロジェクト活動紹介や環境壁新聞等の展示、屋台村、
ホタル観賞を楽しむ多くの人で賑わいました。

6月14日：吉田交流センター近く



日々の手入れが大切

▲「さっそく切れ味を試してみます」と参加者は
話しました。

6月8日に和鋼博物館公開講座「包丁研ぎ教室」
を開催しました。川島光善刃物の代表川島達也氏を
講師に迎え、キャンセル待ちもある人気講座です。
午前と午後12人ずつ包丁の研ぎ方や手入れ方法を
学びました。

「刃の付き方には種類があるから、自分の包丁を
よく知り、それぞれにあった研ぎ方をすることが大
切。プロの研いだ包丁を使い、切れが悪くなれば自
分で手入れをして研ぐことが長く使うコツ」と川島
講師は話しました。

安来市多文化共生イベントとして、6月2日にイ
チゴ狩りを行いました。場所は「高見いちご縁」(下
坂田町)で、普段はイチゴ狩りの受け入れはしてい
ませんが、「異文化交流の助けになるのであれば」と、
今回のイベントに協力いただきました。

イベントには、外国人27人(6カ国)、日本人
14人が参加。最初はぎこちなかった参加者も、グ
ループに分かれてのゲーム、イチゴの取り方やおい
しいイチゴの見分け方の教え合いを通じ次第に打ち
解け、交流が深まっていました。



▲「こっちに赤いイチゴがたくさんあるよ」とい
う声かけなど、自然に会話が増えていきました。

イチゴ狩りで異文化交流



地域の絆を再確認

▲子どもたちも参加し、ヒマワリの種を植栽しました。8月中に開花時期を迎える見込みです。

6月8日に安来市商工会青年部の「“絆”感謝事業」が行われました。地域貢献を通じ青年部と地域の絆を強化することを目的としたこの事業。今回は、地域医療を支えてきた安来市立病院にスポットを当て、周辺のごみ拾いや中庭の清掃等を実施しました。

当日は他団体等からの参加もあり約100人が集結。青年部の村本剛部長は「予想をはるかに超える参加希望があり、皆さんの市立病院への感謝の気持ちが再確認できました。今後も地域に根ざした活動を行っていききたいと思います」と話しました。

6月28日に島田小学校で「カラダを使ったワークショップ」が開催されました。

参加したのは同小学校の2・3年生。劇作家・演出家の越智良江さん、俳優の関根好香さんと大石丈太郎さんが講師を務め、多種多様な表現方法を一緒に楽しく試しました。

子どもたちは、渦を巻くイラストに「アンモナイト」「台風」「ヘビ」と想像力を働かせたり、音楽に合わせて手足をのびのびと動かしたり、自由な発想と創造力で表現することを学んでいました。



表現を全身で楽しむ

▲表現に正解・不正解はなし。テーマに合わせてそれぞれが自分らしくカラダを動かしました。

安来市初となる観光支援型自動販売機が、安来節演芸館に設置されました。この自販機の売り上げの一部は、支援金として観光事業に役立てられます。

6月28日には自販機のお披露目式を実施。音声でコラボした安来市出身のラッパー・SKRYUさんが出席し、実際に飲料を購入して音声を確かめました。SKRYUさんは「現在東京で活動していますが、いつも安来の皆さんからの愛を感じています。何かで安来に貢献したいと思っていたので、今回のコラボはとても嬉しいです」と話しました。



▲音声はSKRYUさんと安来節保存会会員の2パターン。ランダムに流れます。

コラボ自販機で観光支援



▲1センチほどに成長した稚魚を、多い人では10万匹引き渡しました。

ドジョウ稚魚を生産池へ

やすぎどじょう生産組合が6月5日・6日に今年度ふ化させたドジョウの稚魚を生産者へ引き渡しました。昨年の猛暑で親ドジョウが影響を受けましたが、今年は183万匹がふ化しました。組合員の生産池へ放養され、早いものは8月のお盆過ぎには出荷が始まる予定です。

小林倬大組合長は「昨年生産組合設立20周年を迎え、引き続き市内外の人にやすぎどじょうを楽しんでほしい。新たにドジョウ養殖する人も歓迎したい」と話しました。